

# 当別町地域公共交通活性化協議会

公共交通関連 各種 アンケート調査 単純集計

平成30年1月

## もくじ

- |                    |      |
|--------------------|------|
| 1. 郊外地区住民アンケート     | P 01 |
| 2. 青山・弁華別地区住民アンケート | P 06 |
| 3. 市街地予約型線利用者アンケート | P 12 |
| 4. 西当別道の駅線住民アンケート  | P 17 |
| 5. ふれあいバス利用者アンケート  | P 23 |

## ◆アンケート実施概要

- ◇実施期間 平成29年10月末～11月26日
- ◇配布方法 当別町広報
- ◇配布部数 345世帯（世帯1部）
- ◇配布地域 中小屋地区（100世帯）、金沢地区（74世帯）  
川下地区（122世帯）、高岡地区（49世帯）
- ◇回収方法 郵送回収
- ◇回収部数 110件（回収率31.8%）

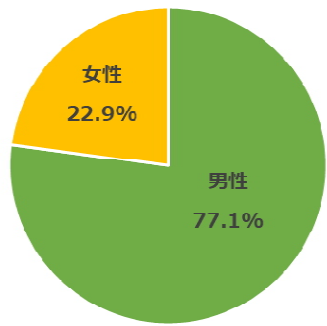
---

公共交通が整備されていないエリアまたはJR北海道の維持困難路線沿線のエリアを対象に「日常の移動実態」や「自家用車の利用状況」、「デマンド型交通の利用意向」等を調査。

◇個人属性／世帯属性

性別

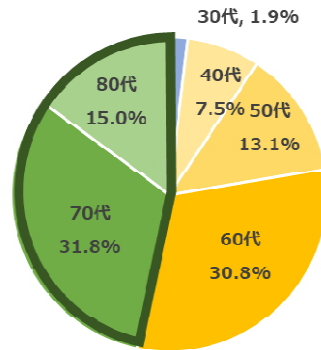
「男性」が77.1%を占める



N=109

年齢

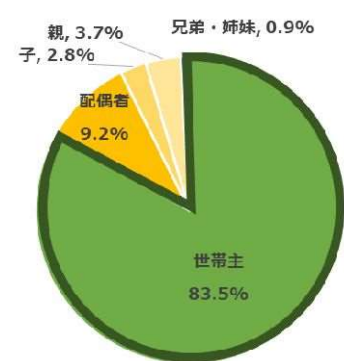
「70歳以上」が5割弱を占める



N=107

続柄

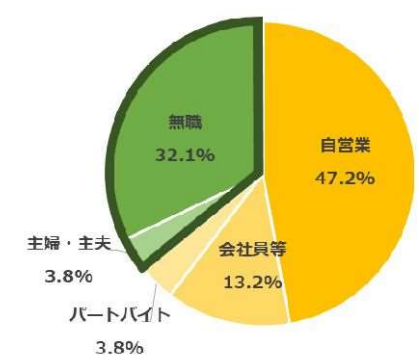
「世帯主」が大半を占める



N=109

職業

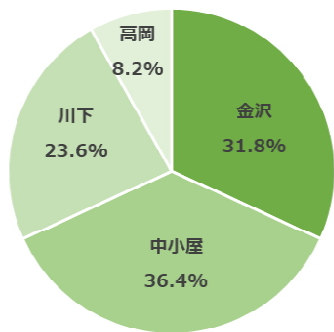
「就業者」が64.1%を占める



N=106

居住地

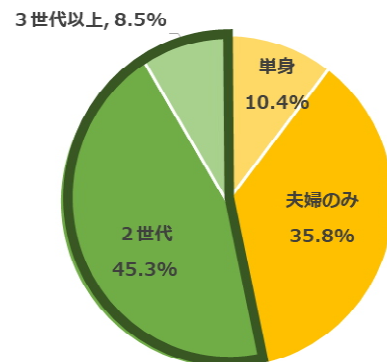
「中小屋」が最も多い



N=110

世帯構成

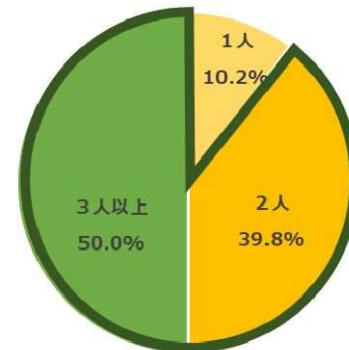
「2世代以上」がおよそ半数



N=106

世帯人数

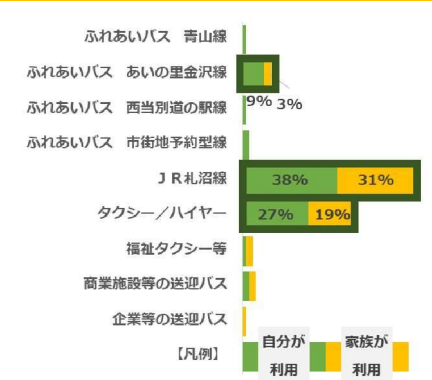
「2人以上」が9割弱を占める



N=108

交通の利用状況

「JR札沼線」の利用が多い

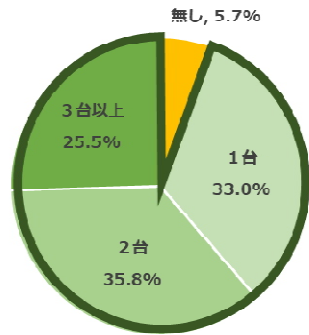


N=110

◇自家用車に関わる状況

自家用車の保有状況

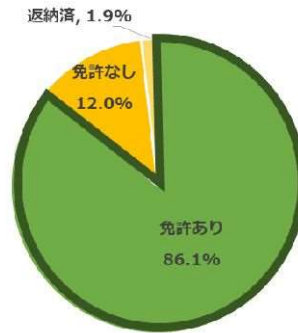
「あり」が9割以上を占める



N=106

自身の免許保有状況

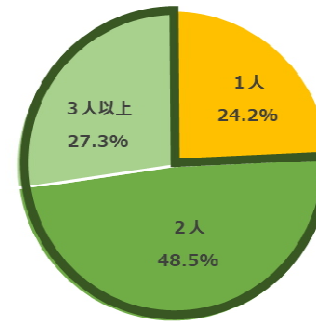
「あり」が9割弱を占める



N=108

運転ができる世帯人数

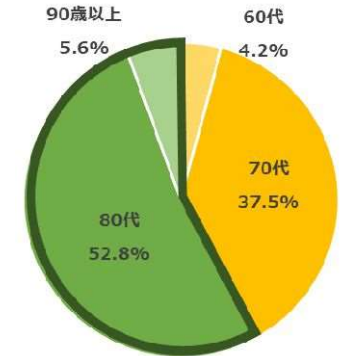
「複数人」が7割強を占める



N=99

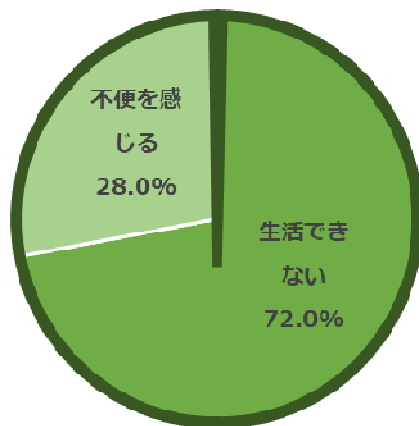
何歳まで運転するか

「80歳以上」が6割弱



N=72

自家用車が無い日常生活について



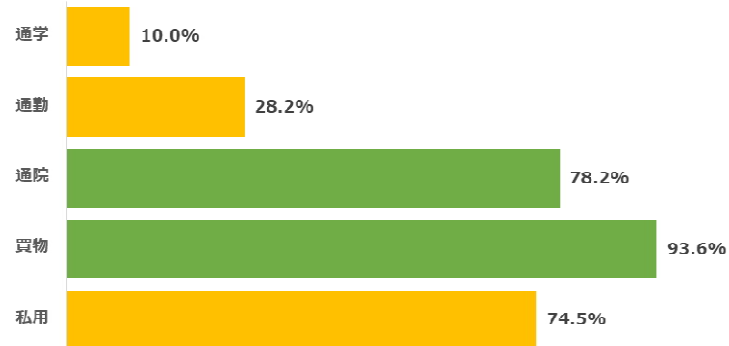
N=100

- 自家用車がないと「生活できない」→72.0%  
「不便を感じる」→28.0%
- 「不便を感じない」の回答はなし
- ふれあいバスが運行していないエリアのため自家用車への依存度が高いことがわかる。
- 同様に“何歳まで運転するか”の設問も80歳以上まで運転するという回答が多い。

◇移動実態（通学・通勤・通院・買物・私用）

外出有無

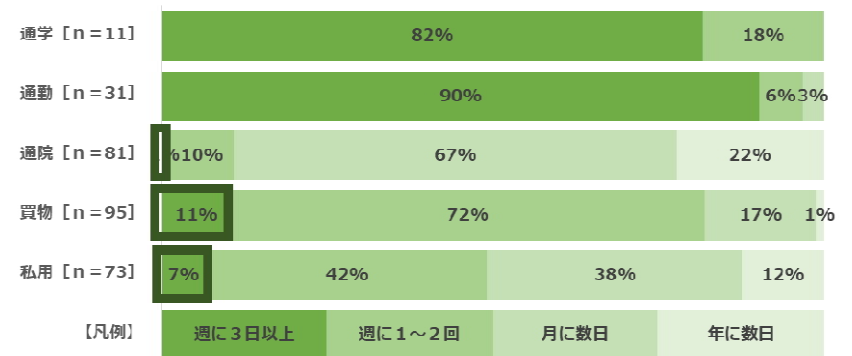
「通院」「買物」「私用」の外出率が高い



N=110

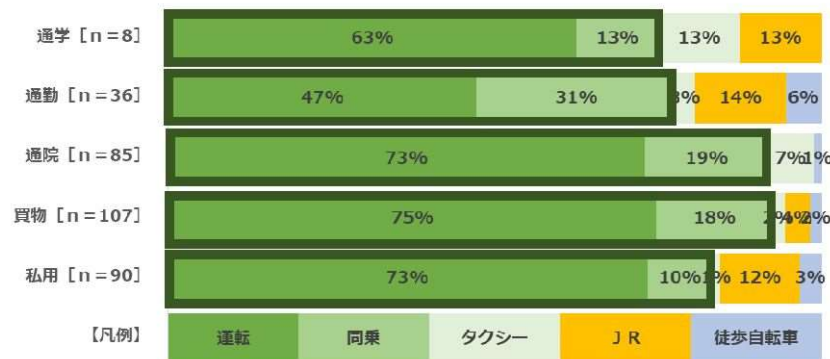
外出頻度

外出率の高い「通院」「買物」「私用」の外出頻度は低い



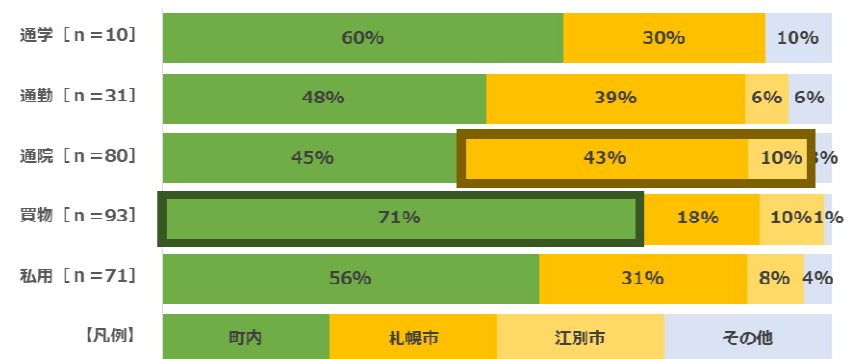
移動手段

「運転」「同乗」の自家用車利用による外出が大半を占める



行先

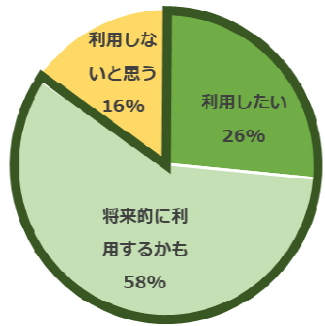
「買物」では町内が多い。「通院」は町外への移動も多い



◇デマンド型交通の利用意向について

利用意向

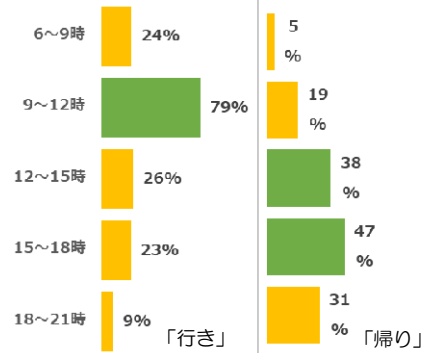
「意向あり」が8割以上を占める



N=102

利用時間

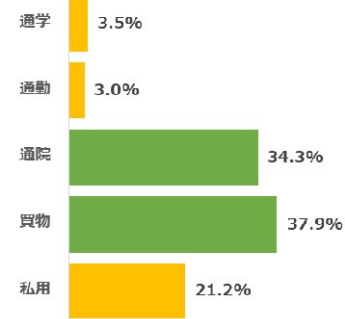
行きは午前中、帰りは午後から夕方



N=86

利用目的

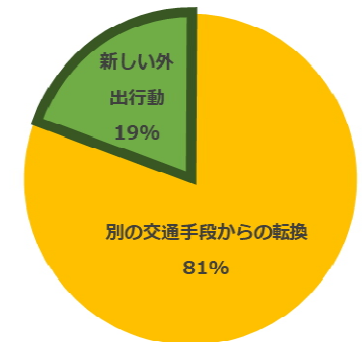
「通院」「買物」が多い



N=198

デマンドでの外出について

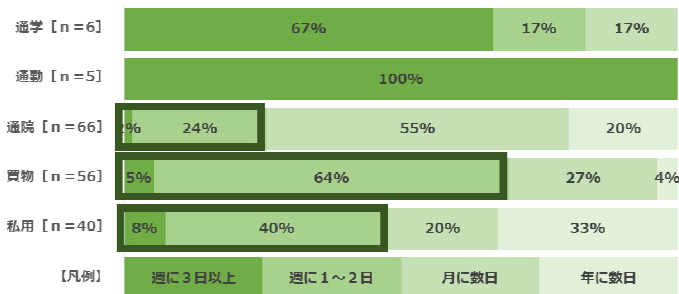
「新たな外出」が2割発生



N=75

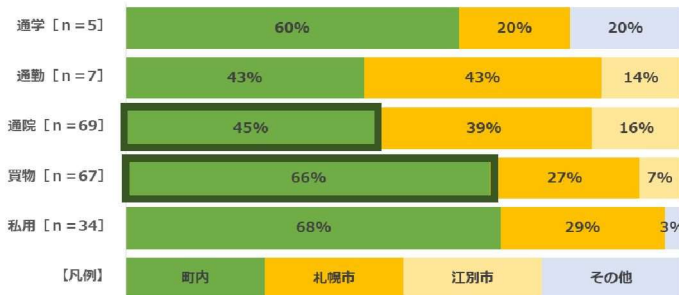
利用頻度

「通院」「買物」「私用」の週利用が増える



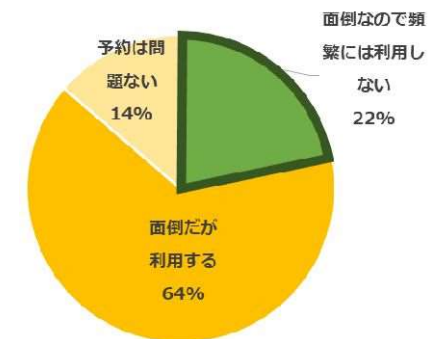
行先

「通院」「買物」は町内が多い



予約について

2割は予約が面倒で「利用しない」



N=73

## ◆アンケート実施概要

- ◇実施期間 平成29年10月末～11月26日
- ◇配布方法 当別町広報
- ◇配布部数 106世帯（世帯1部）
- ◇配布地域 青山地区（14世帯）、弁華別地区（92世帯）
- ◇回収方法 郵送回収
- ◇回収部数 29件（回収率27.4%）

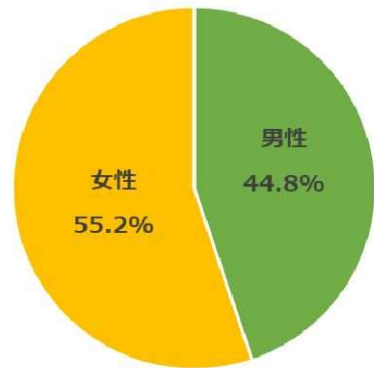
---

利用減少が続く青山線について、予約対象区間の沿線住民を対象に、「日常の移動実態」、「青山線の利用状況」、「青山線の予約方法についての意見」、「青山線の満足度」、「デマンド型交通の利用意向」を調査。

## ◇個人属性／世帯属性

## 性別

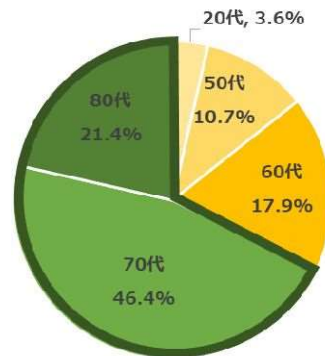
「女性」が55.2%を占める



N=29

## 年齢

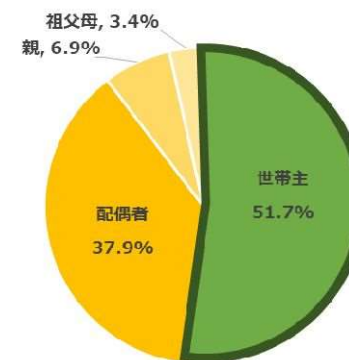
「70歳以上」が7割り弱を占める



N=28

## 続柄

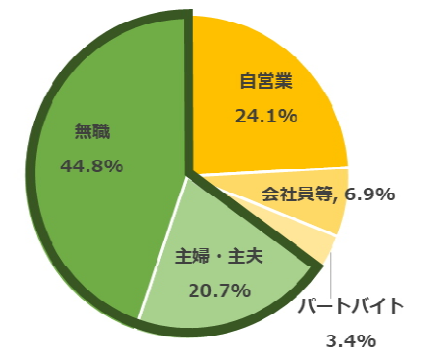
「世帯主」が半数を占める



N=29

## 職業

「就業者」は34.4%を占める



N=29

## 居住地

「弁華別」のみで「青山」はなし



N=29

## 世帯構成

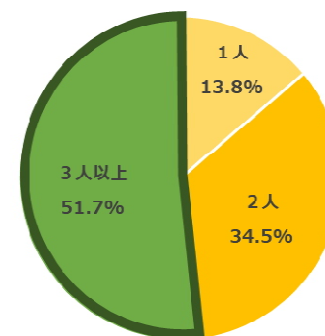
「2世代以上」がおよそ半数



N=29

## 世帯人数

「3人以上」が半数を占める



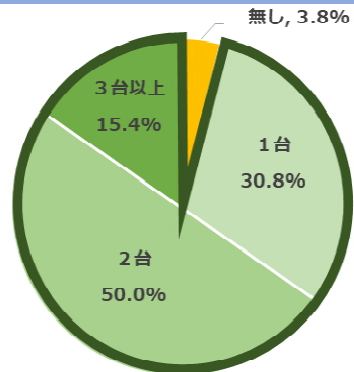
N=29



## ◇自家用車に関わる状況

## 自家用車の保有状況

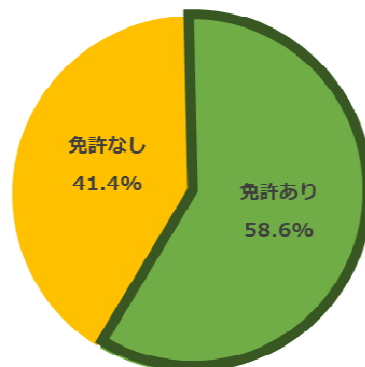
「あり」が9割以上を占める



N=26

## 自身の免許保有状況

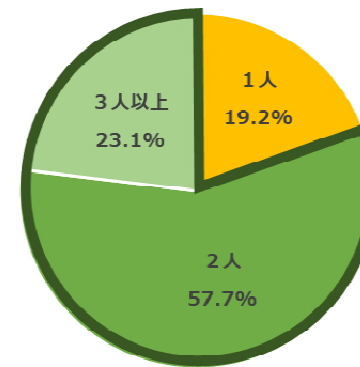
「あり」が6割弱を占める



N=29

## 運転ができる世帯人数

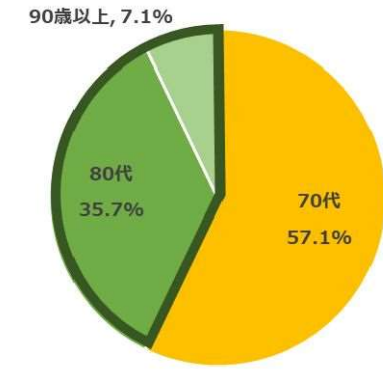
「複数人」が8割強を占める



N=26

## 何歳まで運転するか

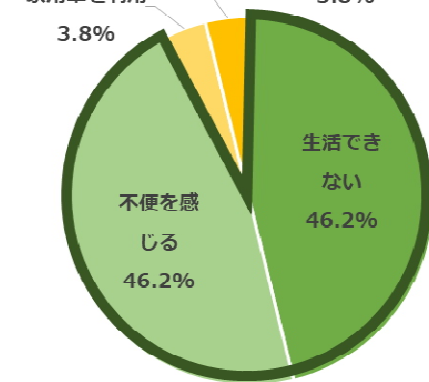
「80歳以上」が4割強



N=14

## 自家用車が無い日常生活について

不便は無いが自家用車を利用



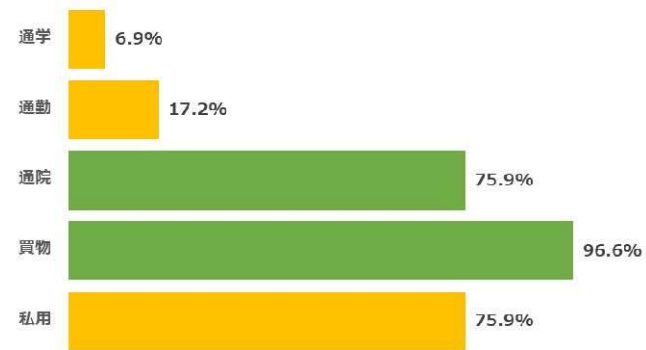
N=26

- 自家用車がないと「生活できない」→46.2%  
「不便を感じる」→46.2%
- 「不便を感じない」の回答は合計7.6%
- 青山線が運行しているエリアだが自家用車への依存度が高いことがわかる。
- 同様に“何歳まで運転するか”の設問も80歳以上まで運転するという回答が多い。

## ◇移動実態（通学・通勤・通院・買物・私用）

## 外出有無

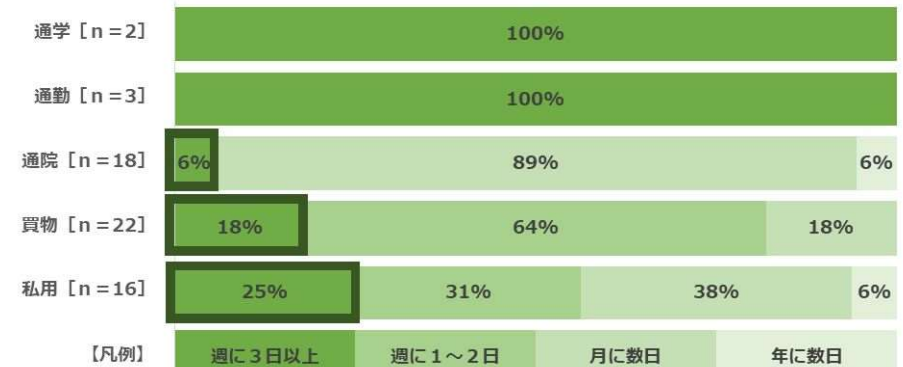
「通院」「買物」「私用」の外出率が高い



N=110

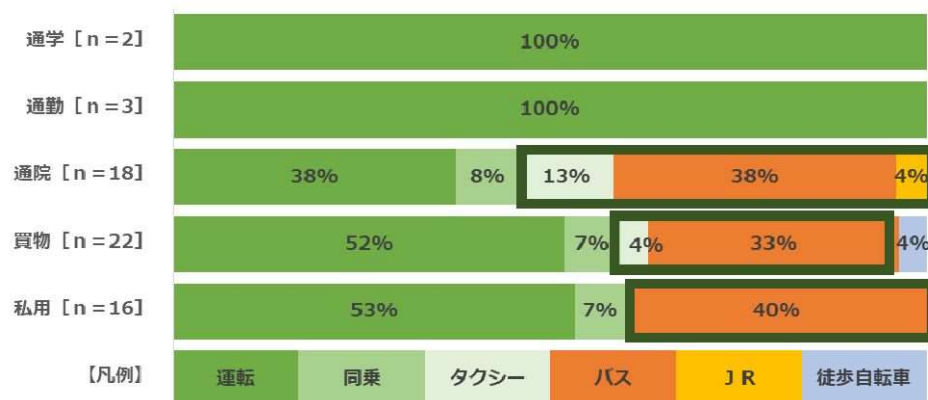
## 外出頻度

外出率の高い「通院」「買物」「私用」の外出頻度は低い



## 移動手段

「通院」「買物」「私用」では「バス」の利用も3割以上存在



## 行先

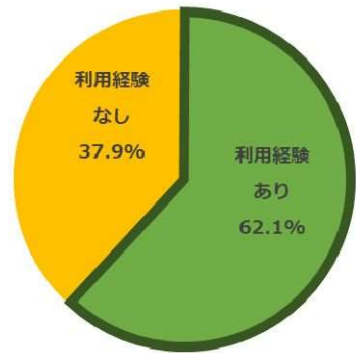
「通院」「買物」「私用」では「江別市」「札幌市」への移動も発生



◇青山線の利用状況と予約方法について

### 利用経験

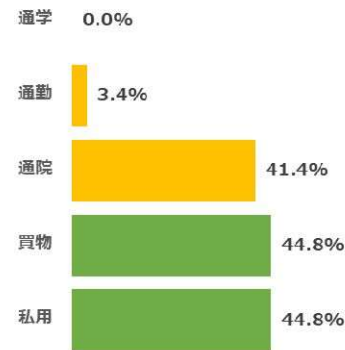
「経験あり」が62.1%を占める



N=29

### 利用目的

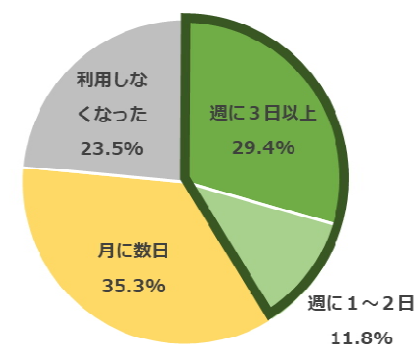
「買物」「私用」「通院」が多い



N=29

### 利用頻度

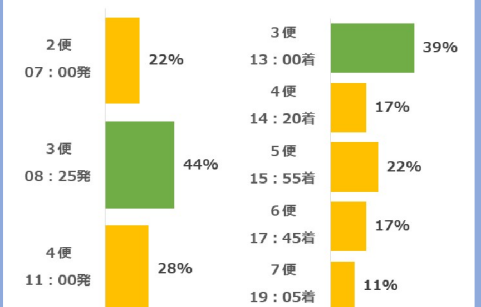
「週利用」は4割強程度



N=17

### 利用する便

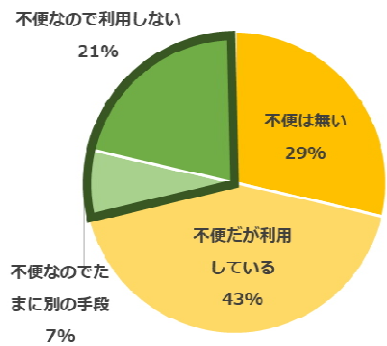
「行き3便」「帰り3便」が多い



N=18

### 予約を不便に感じるか

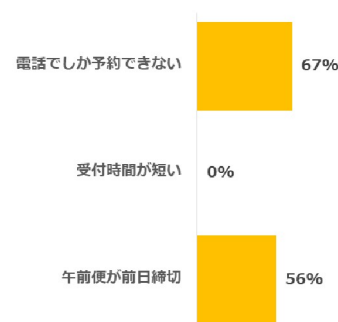
「不便」のため28%が利用離れ



N=14

### 予約で不便に思う点

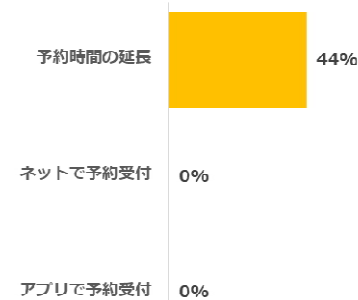
「電話予約」が最も多い



N=9

### 実施してほしいサービス

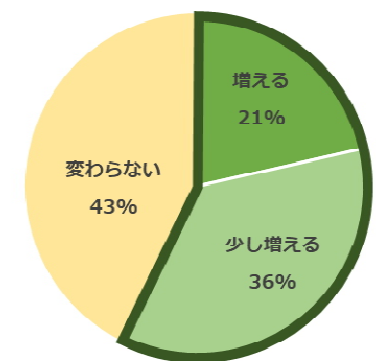
「予約時間」への要望が強い



N=18

### 利便性改善で利用が増えるか

「増える」の回答が合計で57%

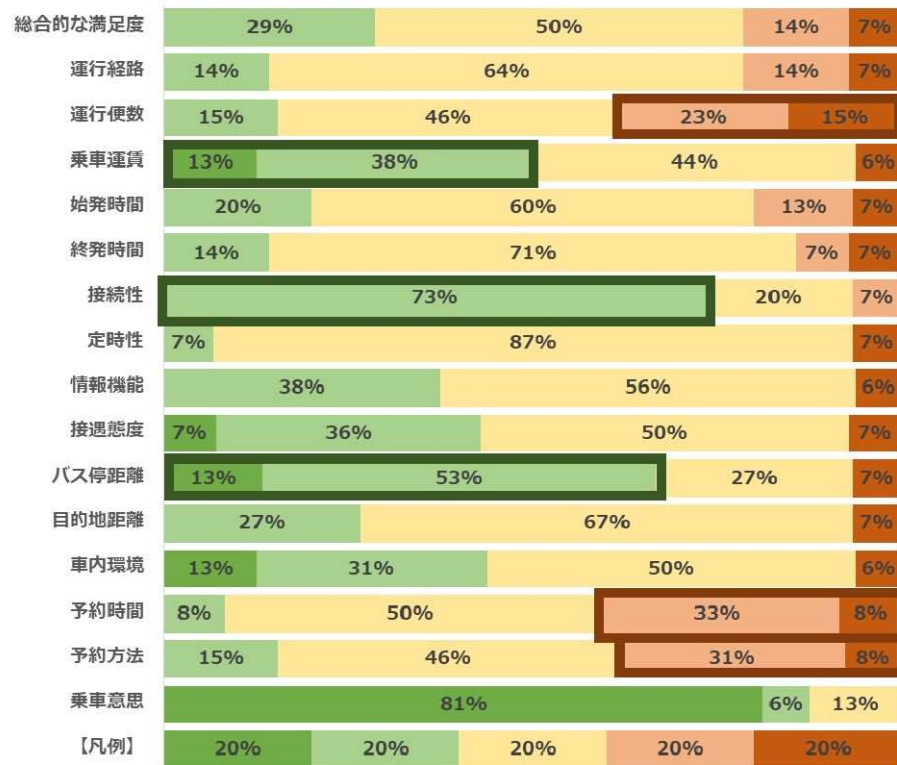


N=18

## ◇ふれあいバスのサービス満足度と待合環境について

### ふれあいバスのサービス満足度

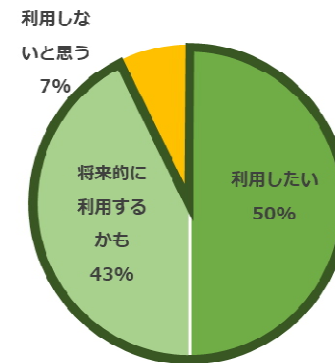
- 総合的な満足率は29%と低い結果となった
- 「接続性」の満足度が最も高く、次いで「バス停距離」「乗車運賃」の順に満足度が高い。
- 「予約時間」の不満足度が最も高く、次いで「予約方法」「運行便数」の順に不満足度が高い。



N=16

### デマンド型交通の利用意向

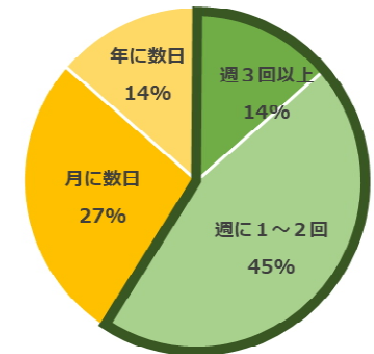
「利用意向あり」が9割以上



N=26

### 利用頻度

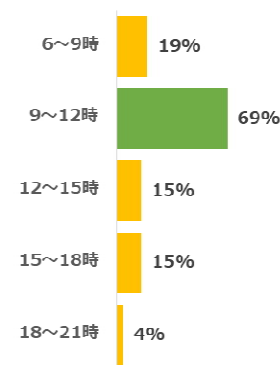
「週利用」が6割り弱



N=22

### 利用頻度

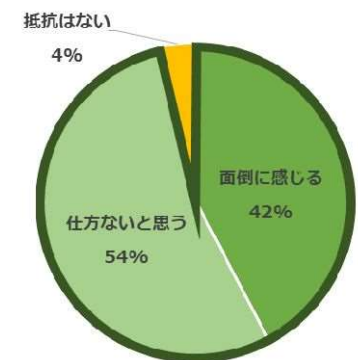
「9~12時」の利用が大半



N=26

### 予約への抵抗について

ほとんどが予約に抵抗あり



N=26

## ◆アンケート実施概要

◇実施期間 平成29年10月末～11月26日

◇配布方法 郵送配布

◇配布部数 137名

◇配布対象 市街地予約型線の利用登録者

◇回収方法 郵送回収

◇回収部数 59件（回収率43.0%）

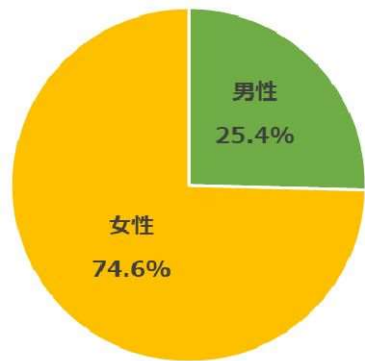
---

市街地予約型線の利用者を対象に、「市街地予約型線の利用状況」、「市街地予約型線の利便性評価」、「市街地予約型線の満足度」を調査。

◇個人属性／世帯属性

### 性別

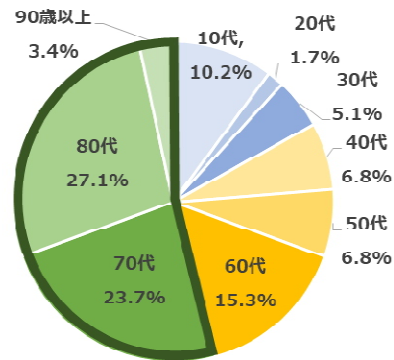
「女性」が74.6%を占める



N=59

### 年齢

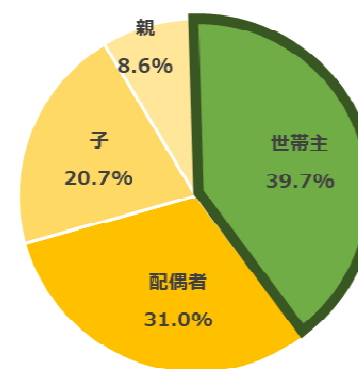
「70歳以上」が半数を占める



N=59

### 続柄

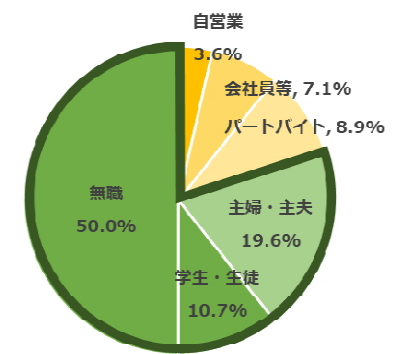
「世帯主」が4割弱を占める



N=58

### 職業

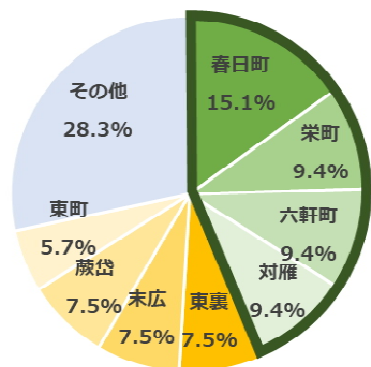
「就業者」は2割り弱



N=56

### 居住地

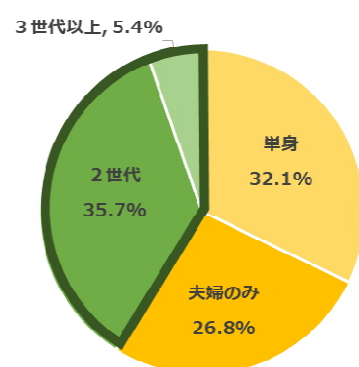
「春日町」が最も多く15.1%



N=53

### 世帯構成

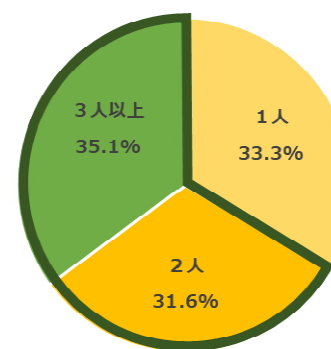
「2世代以上」が約4割を占める



N=56

### 世帯人数

「2人以上」が7割弱を占める

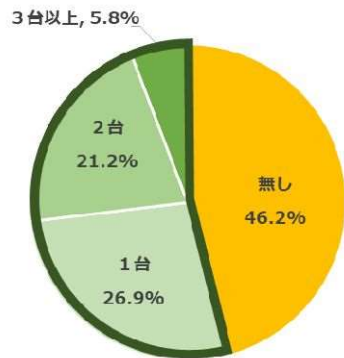


N=57

◇自家用車に関わる状況

自家用車の保有状況

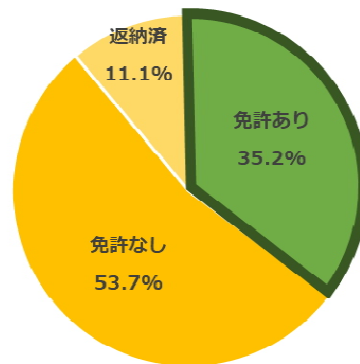
「あり」がおよそ半数



N=52

自身の免許保有状況

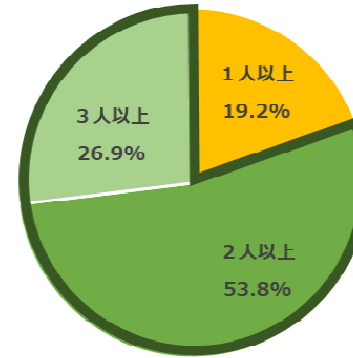
「あり」は35.2%程度



N=54

運転ができる世帯人数

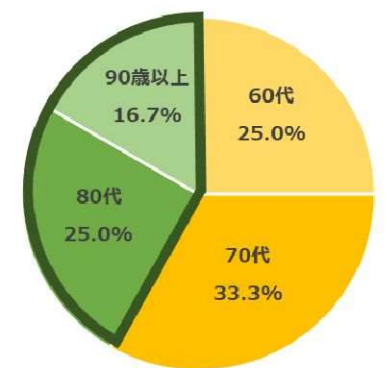
「複数人」が8割強を占める



N=26

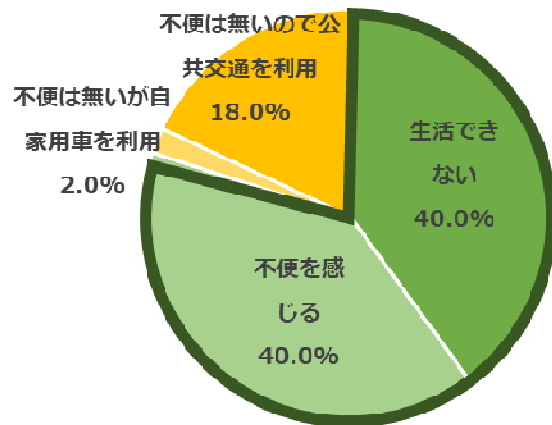
何歳まで運転するか

「80歳以上」が4割弱



N=12

自家用車が無い日常生活について



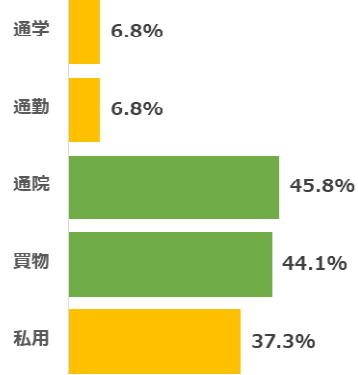
N=50

- 自家用車がないと「生活できない」→40.0%  
「不便を感じる」→40.0%
- 「不便を感じない」の回答は合計20.0%
- 免許の保有率も低く、公共交通利用率も高い  
自家用車への依存度は比較的低い
- 同様に“何歳まで運転するか”の設問も  
60代までの回答者が25.0%存在。

◇市街地予約型線の利用状況とサービス満足度

利用目的

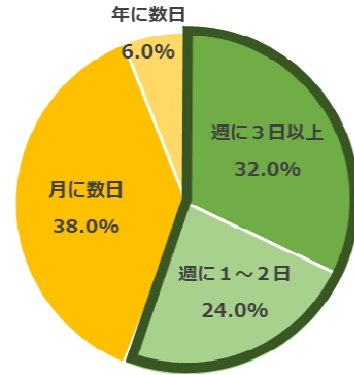
「通院」「買物」が多い



N=59

利用頻度

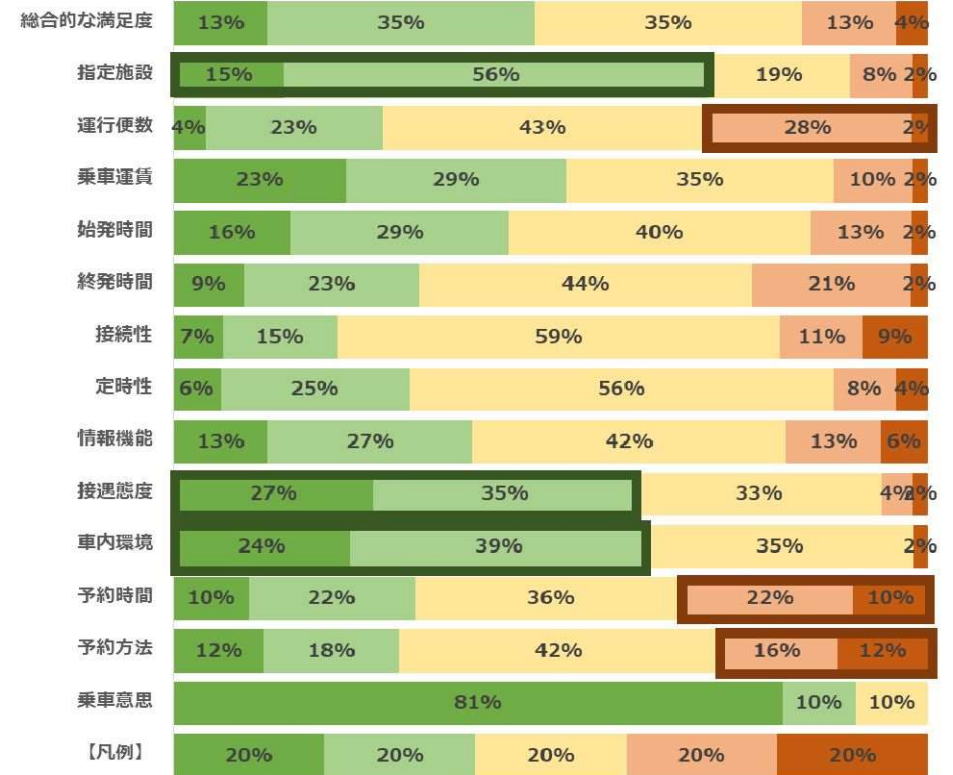
「週利用」が半数強を占める



N=50

市街地予約型線のサービス満足度

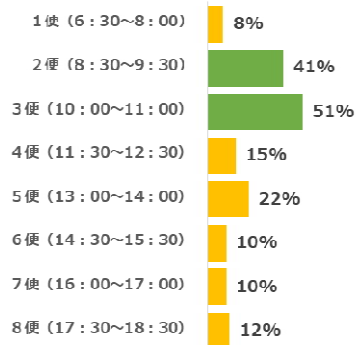
- ・総合的な満足率は48%とおよそ半数となった。
- ・「指定施設」の満足度が最も高く、次いで「車内環境」「接客態度」の順に満足度が高い。
- ・「予約時間」の不満足度が最も高く、次いで「運行便数」「予約方法」の順に不満足度が高い。



N=52

主な利用時間

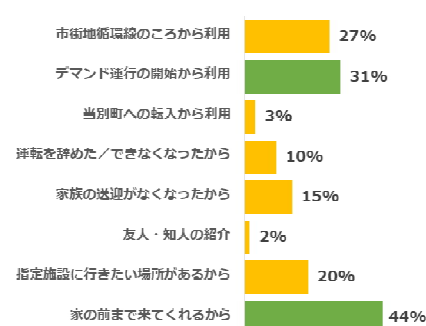
「午前中」の利用が多い



N=59

利用動機

「ドアtoドア」の最も多い



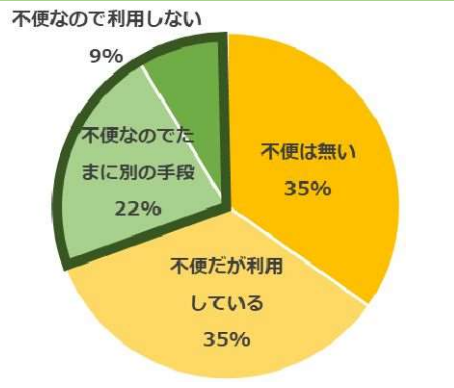
N=59



◇運行方法／予約方法に関する要望

### 運行方法について

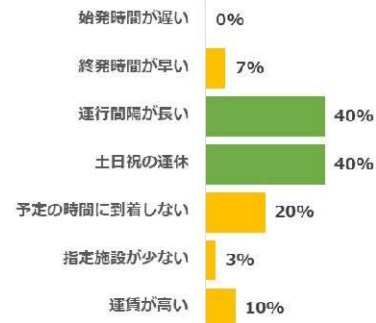
「不便」が65%を占める



N=46

### 運行方法の不便さ

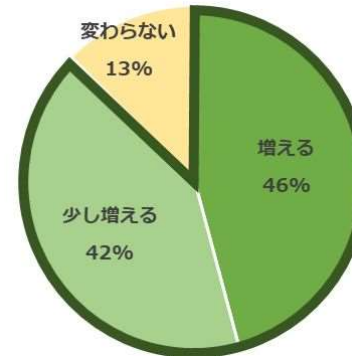
「運行間隔」「土日祝運休」が多い



N=30

### 運行利便性改善後の利用頻度

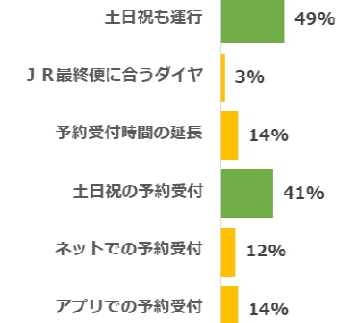
「増える」が88%を占める



N=48

### 実施してほしいサービス

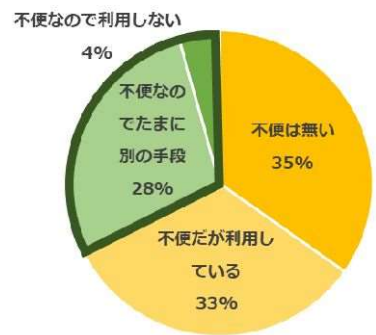
「土日祝」のサービス要望が高い



N=59

### 予約方法について

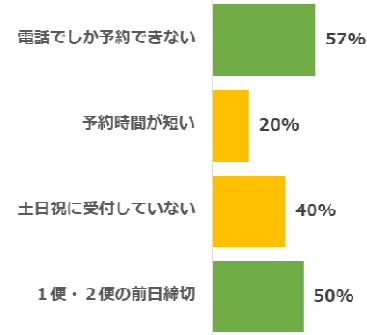
「不便」が65%を占める



N=46

### 予約方法の不便さ

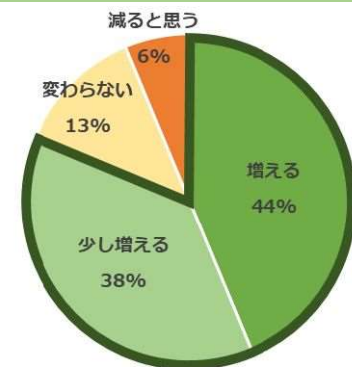
「電話のみ」が最も多く57%



N=30

### 運行利便性改善後の利用頻度

「増える」が82%を占める



N=48

## ◆アンケート実施概要

- ◇実施期間 平成29年10月末～11月26日
- ◇配布方法 当別町広報
- ◇配布部数 2203世帯（世帯1部）
- ◇配布地域 西当別道の駅の沿線地区住民全世帯
  
- ◇回収方法 郵送回収
- ◇回収部数 564件（回収率25.6%）

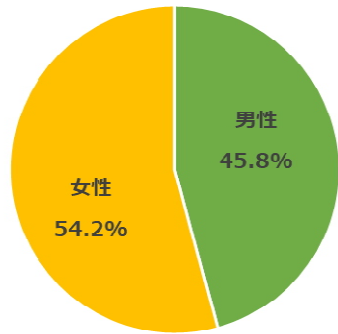
---

新たに運行を開始した西当別道の駅線沿線の住民を対象に、「日常の移動実態」、「ふれあいバスの利用状況」、「ふれあいバスのサービス満足度」、「道の駅の利用状況」、「新路線運行による効果」を調査。

◇個人属性／世帯属性

性別

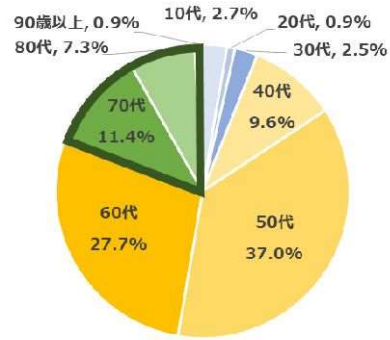
「女性」が54.2%を占める



N=561

年齢

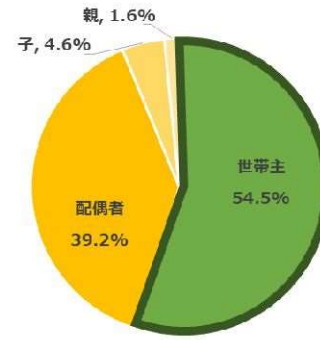
「70歳以上」は2割り弱



N=560

続柄

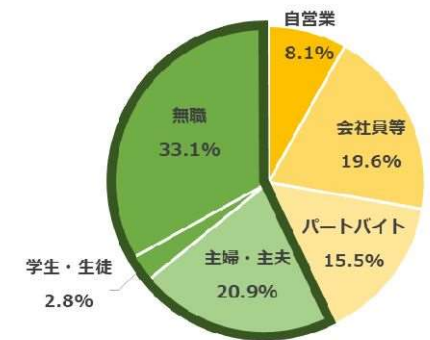
「世帯主」がおよそ半数



N=561

職業

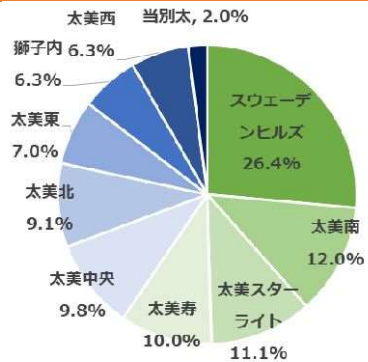
「就業者」は4割強を占める



N=541

居住地

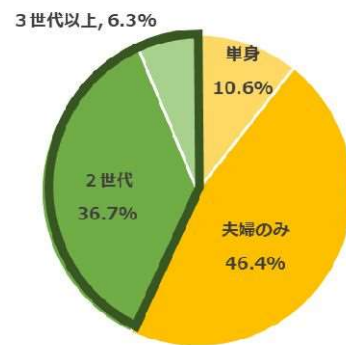
「ヒルズ」が最も多い



N=541

世帯構成

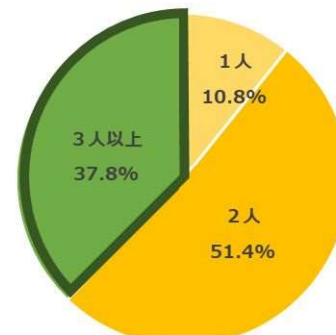
「2世代以上」が4割強を占める



N=556

世帯人数

「2人」が半数を占める

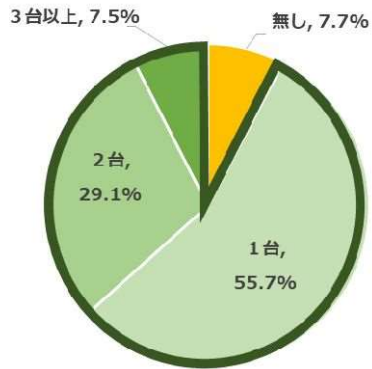


N=558

◇自家用車に関わる状況

自家用車の保有状況

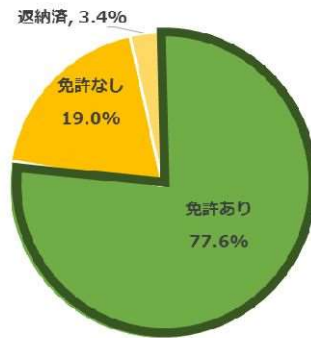
「あり」は9割以上



N=557

自身の免許保有状況

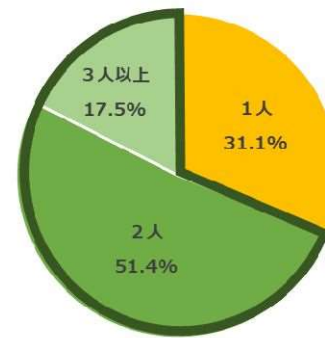
「あり」が77.6%



N=562

運転ができる世帯人数

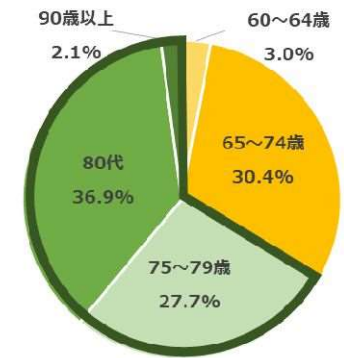
「複数人」が7割弱を占める



N=508

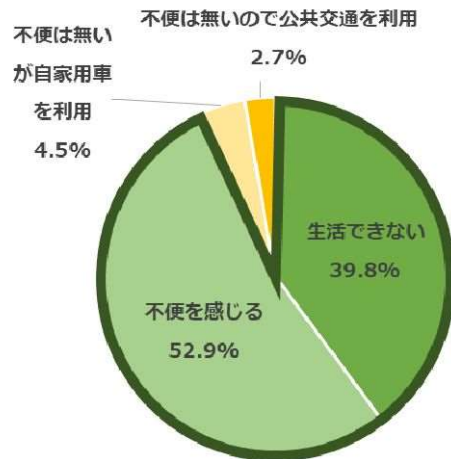
何歳まで運転するか

「75歳以上」が75%と多い



N=336

自家用車が無い日常生活について



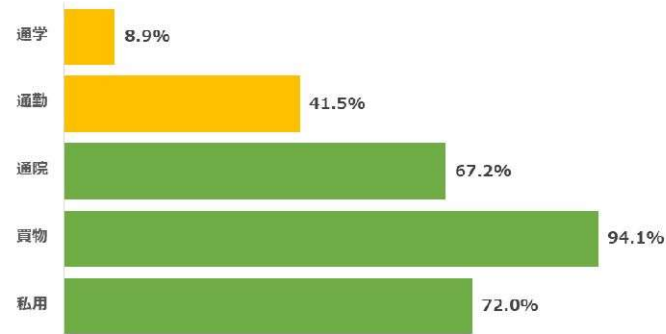
N=512

- 自家用車がないと「生活できない」→39.8%  
「不便を感じる」→52.9%
- 「不便を感じない」の回答は合計7.2%
- 回答者はふれあいバスが利用可能であるが自家用車への依存は非常に高い
- 同様に“何歳まで運転するか”の設問も多くが75歳よりも高い年齢を回答した。

◇日常の移動実態

外出有無

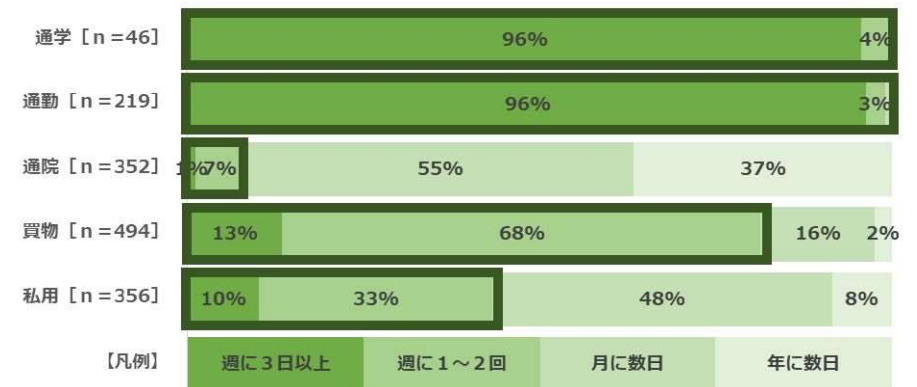
「買物」の外出率が非常に高い



N=564

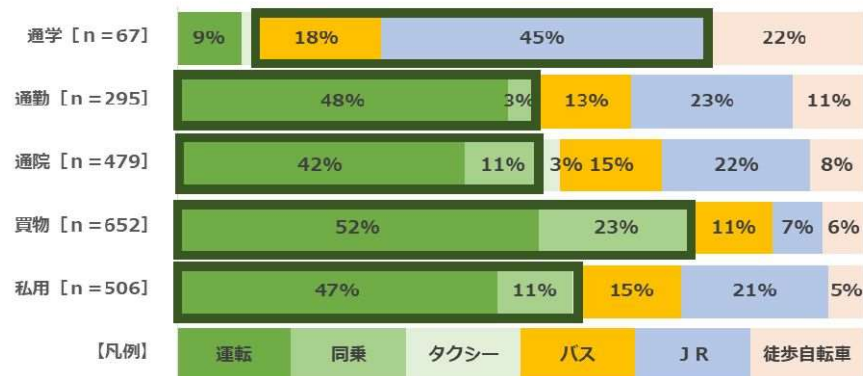
外出頻度

「通学」「通勤」「買物」は「週利用」の割合が高い



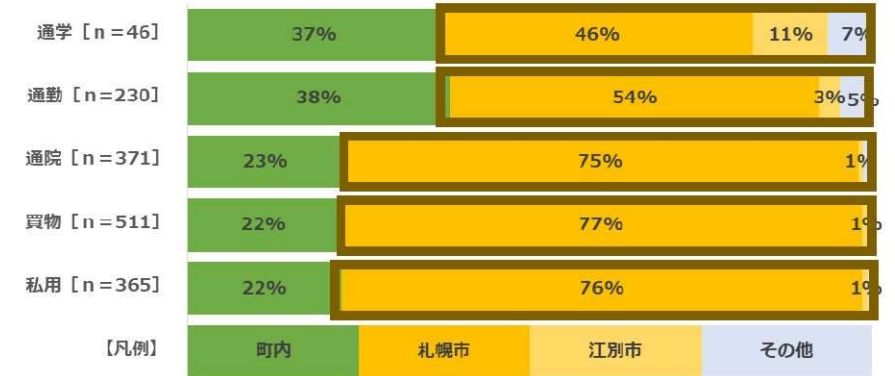
移動手段

「通学」以外では自家用車の利用が高い



行先

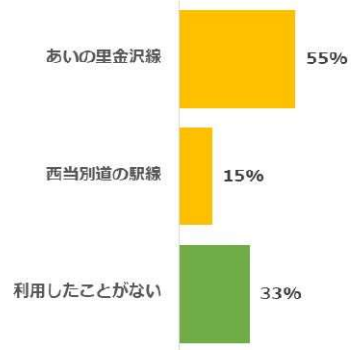
全目的で「札幌市」への移動が多い



## ◇ふれあいバスの利用状況とサービスの満足度

### 利用経験

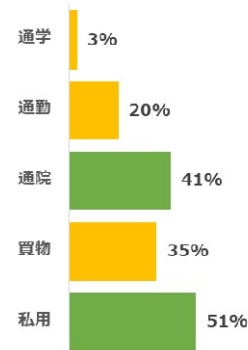
「利用なし」は33%



N=564

### 利用目的

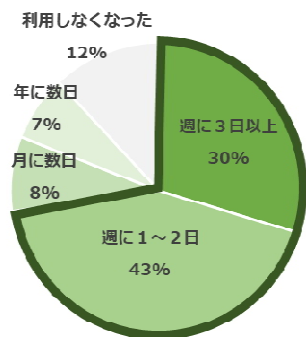
「私用」が最も多く51%



N=377

### 利用頻度

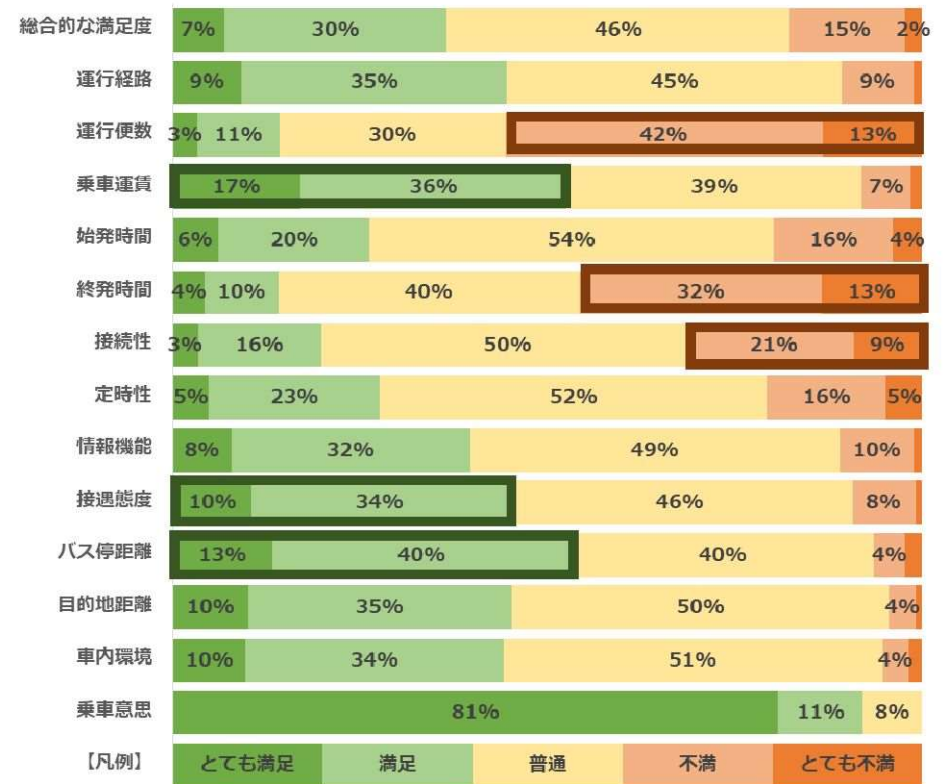
「週利用」は73%



N=320

### ふれあいバスのサービス満足度

- 総合的な満足率は37%となった
- 「乗車運賃」と「バス停虚位」の満足度が高く、次いで「接遇態度」の順に満足度が高い。
- 「運行便数」の不満足度が最も高く、次いで「終発時間」「接続性」の順に不満足度が高い。

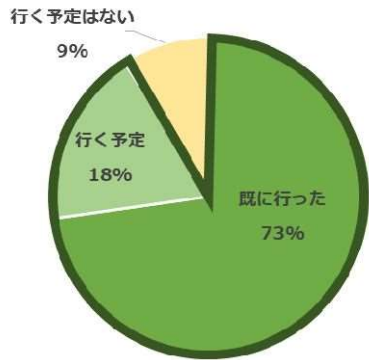


N=342

◇道の駅の利用状況と西当別道の駅線の運行開始効果

道の駅の利用状況

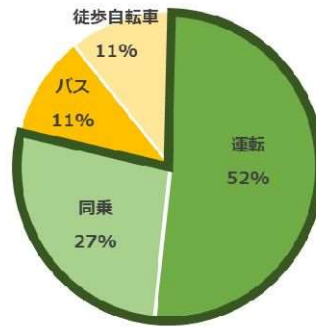
「利用／利用予定」が9割



N=547

道の駅への交通手段

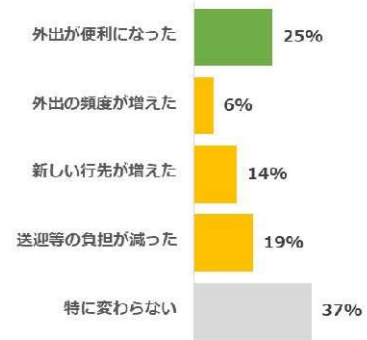
「自家用車」が大半を占める



N=633

道の駅線の効果

「便利になった」が25%



N=398

## ◆アンケート実施概要

- ◇実施期間 平成29年12月～平成30年1月
- ◇配布方法 手配りによる配布
- ◇配布場所 当別駅バス停前、太美駅バス停前、北海道医療大学バス停前、ふれあいバス車内
- ◇配布日時 第1回：平成29年11月29日 第2回：平成29年12月21日
- ◇配布部数 344部
  
- ◇回収方法 郵送回収、北海道医療大学構内回収BOX
- ◇回収部数 117件（回収率34.0%）

---

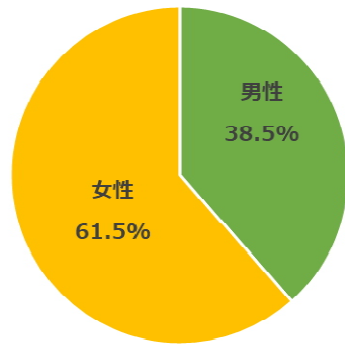
ふれあいバスの利用者（当日）を対象に「利用状況」、「季節での利用状況の変化」、「JRとの選択要因」、「ふれあいバスのサービス満足度」、「待合環境への要望」等を調査。



◇個人属性／世帯属性

性別

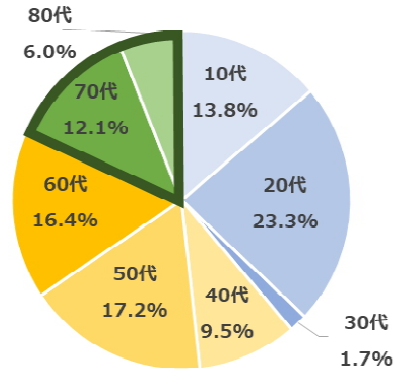
「女性」が61.5%を占める



N=117

年齢

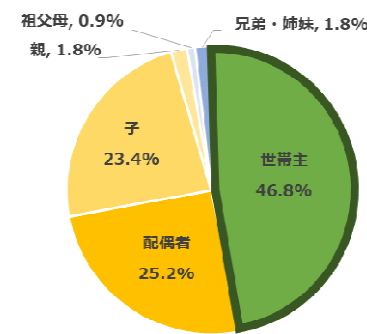
「70歳以上」は2割を下回る



N=116

続柄

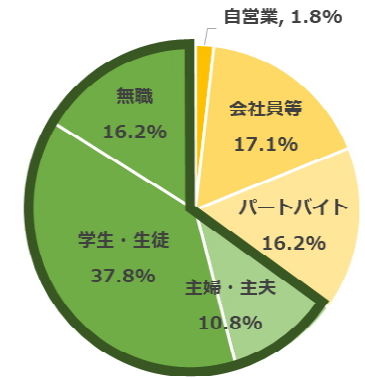
「世帯主」がおよそ半数



N=111

職業

「就業者」は35.1%を占める



N=111

居住地

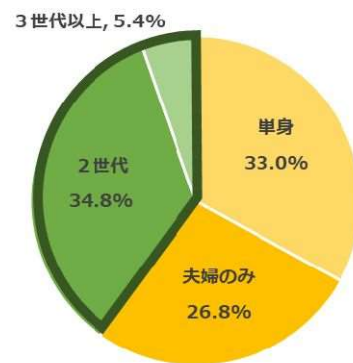
「町内」が大半だが「札幌」も存在



N=117

世帯構成

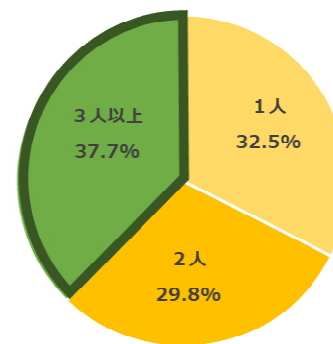
「2世代」が最も多く34.8%



N=112

世帯人数

「3人以上」が最も多く37.7%

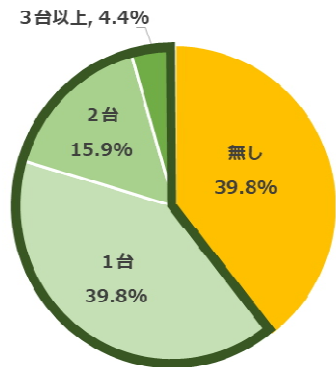


N=113

◇自家用車に関わる状況

自家用車の保有状況

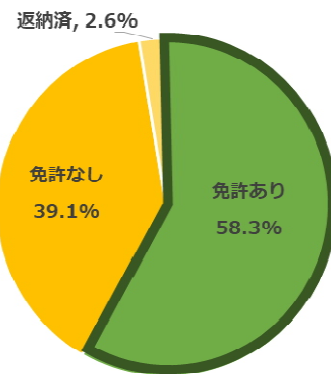
「あり」は6割弱程度



N=113

自身の免許保有状況

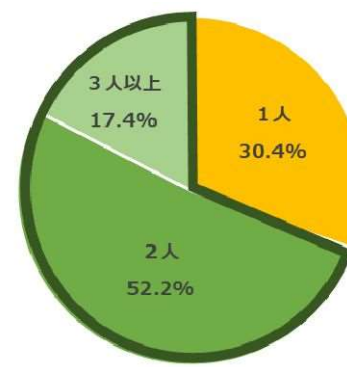
「あり」が6割弱程度



N=115

運転ができる世帯人数

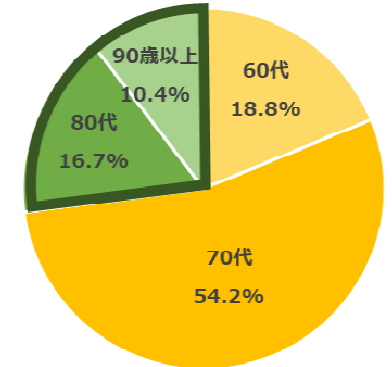
「複数人」が7割弱を占める



N=69

何歳まで運転するか

「80歳以上」は27.1%にとどまる

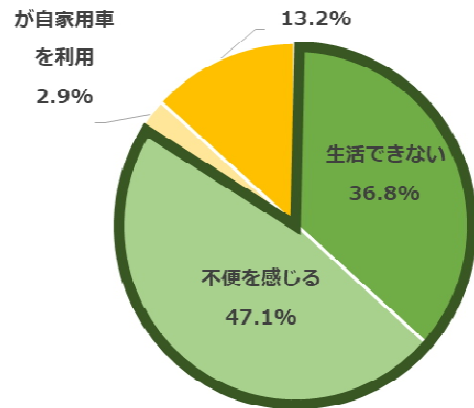


N=48

自家用車が無い日常生活について

不便は無い  
が自家用車  
を利用  
2.9%

不便は無いので公共交通を利用  
13.2%



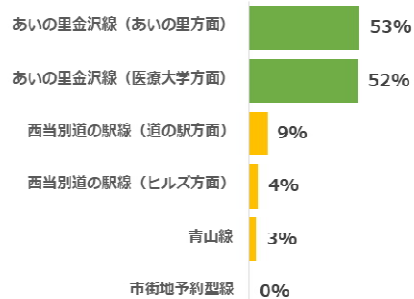
N=68

- 自家用車がないと「生活できない」→36.8%  
「不便を感じる」→47.1%
- 「不便を感じない」の回答は合計16.1%
- 回答者はふれあいバスが利用可能であるが自家用車への依存が8割程度見られる
- しかし“何歳まで運転するか”の設問では大半が70代までで運転を辞めると回答。

◇ふれあいバスの利用状況（調査日当日の動き）

### 利用した路線

「女性」が61.5%を占める



N=117

### 乗車したバス停

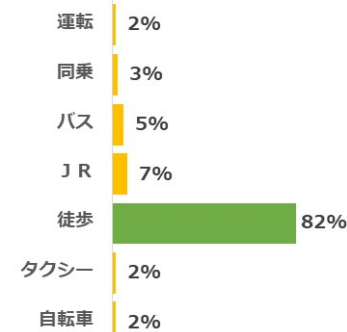
「70歳以上」は2割を下回る



N=108

### 乗車までの交通手段

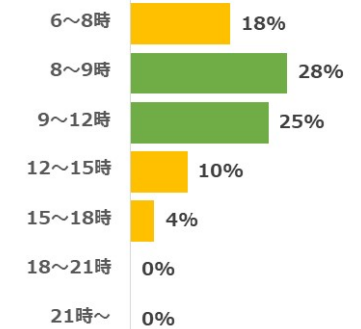
「世帯主」がおよそ半数



N=117

### 乗車した時間

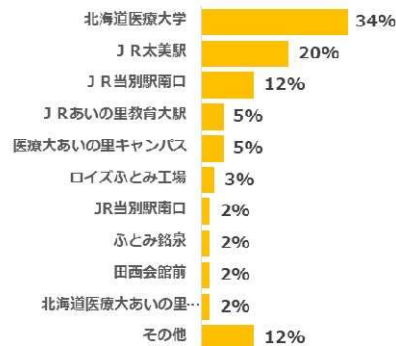
「就業者」は35.1%を占める



N=117

### 降車したバス停

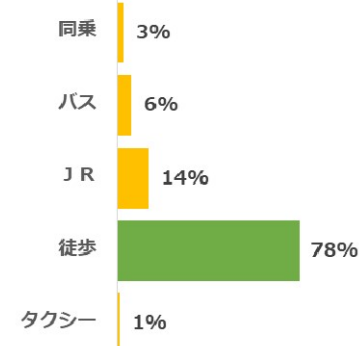
「2世代」が最も多く34.8%



N=99

### 降車からの交通手段

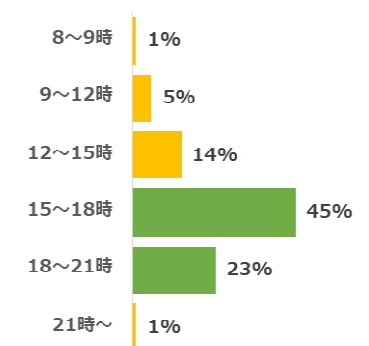
「3人以上」が最も多く37.7%



N=117

### 降車した時間

「J R 札沼線」の利用が多い

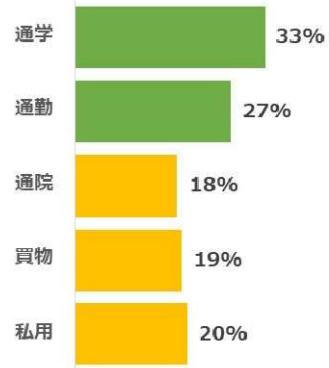


N=117

◇ふれあいバスの利用状況とJRとの選択要因について

利用目的

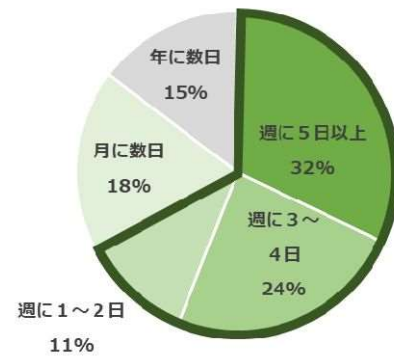
「通学」「通勤」が多数



N=117

夏期の利用頻度

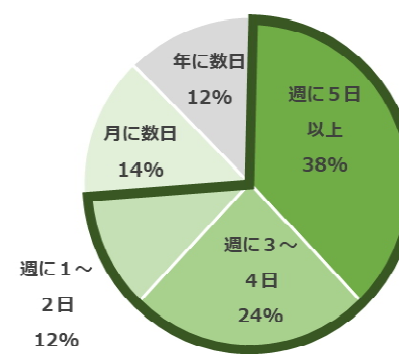
「週利用」が68%を占める



N=109

冬期の利用頻度

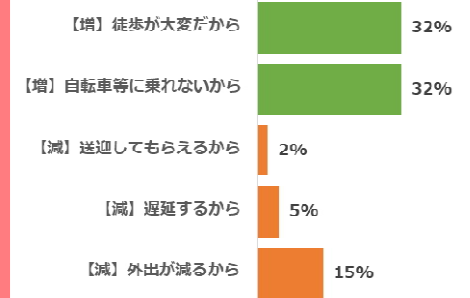
「週利用」が74%を占める



N=113

冬期に頻度が変わる理由

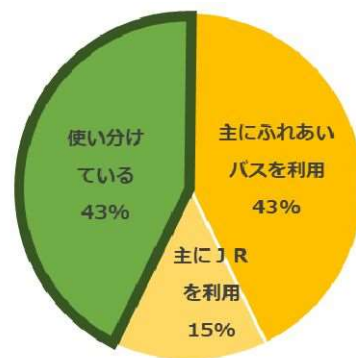
「徒歩・自転車」から利用に転換



N=82

JRとバスの選択

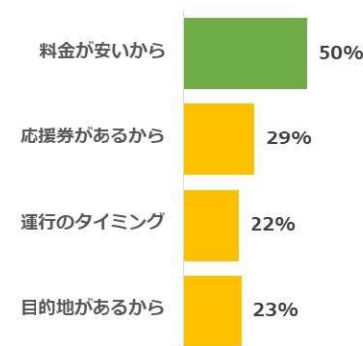
「使い分け」が最も多く43%



N=110

バスの選択要因

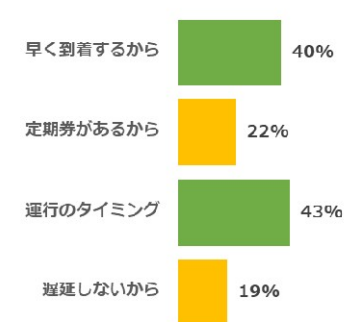
「安いから」が最も多く50.0%



N=94

JRの選択要因

「速達性」と「タイミング」が要因

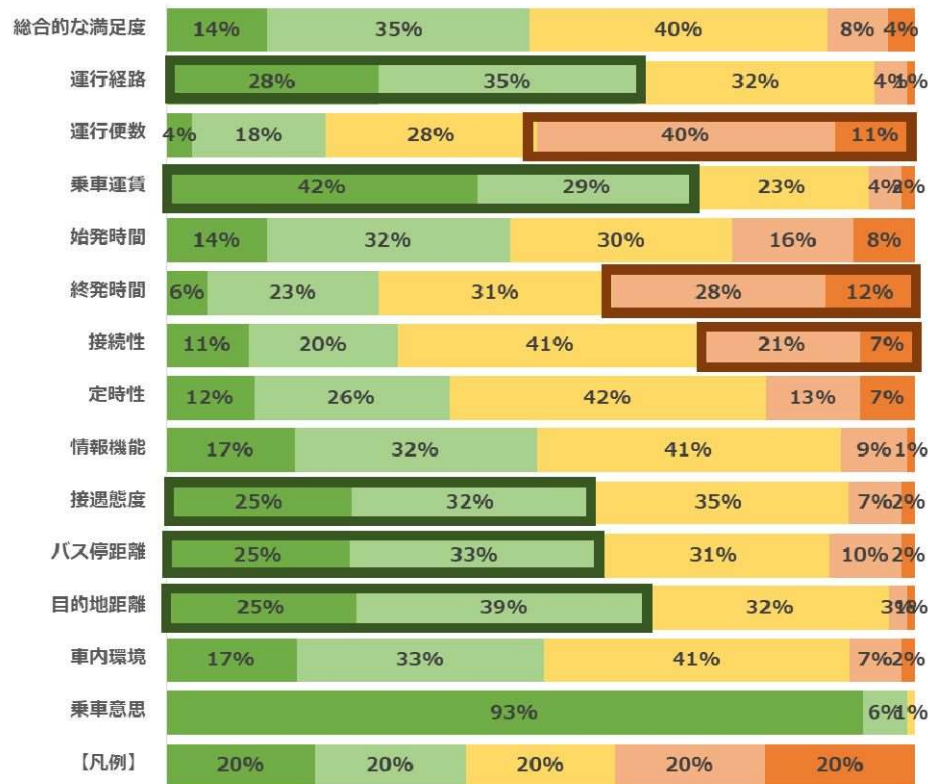


N=63

## ◇ふれあいバスのサービス満足度と待合環境について

### ふれあいバスのサービス満足度

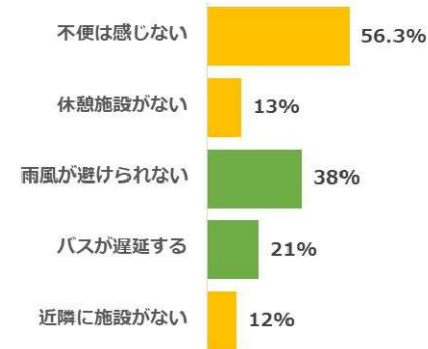
- 総合的な満足率は49%とほぼ半数となった
- 「乗車運賃」の満足度が最も高く、次いで「目的地距離」「運行経路」「バス停距離」「接客態度」の順に満足度が高い。
- 「運行便数」の不満足度が最も高く、次いで「終発時間」「接続性」の順に不満足度が高い。



N=115

### 待合環境について

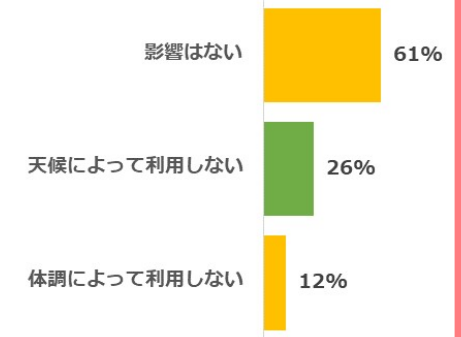
「雨風」「遅延」について不満



N=112

### バス利用への影響

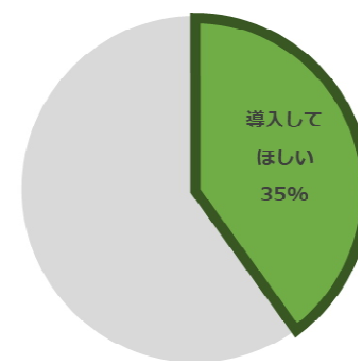
「天候で利用しない」が26%



N=117

### バスロケの必要性

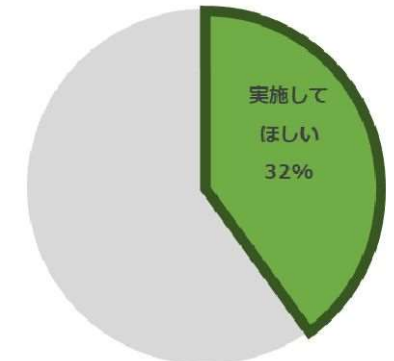
「35%」から要望あり



N=117

### バス待ち店舗の必要性

「32%」から要望あり



N=117